

海老名市立大谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和5年度 第3回)

- 1 日時 令和6年2月27日(火) 9:00~10:00
- 2 場所 海老名市立大谷小学校 校長室
- 3 出席委員 石井正雄委員長、藤澤ゆかり委員、今別府淳子委員、桐生行雄委員
小菌洋教頭、島仲京子校長

4 会議の内容

(1) 学校評価について

島仲校長：全体的に落ち着いて学校生活を送っている様子うかがえる。保護者のアンケート結果から見ると、もう少し相談しやすい環境づくりに努めることも必要だと感じた。来年度に向けグランドデザインを見直したので、その内容が理解されているか、教育効果が出ているのかを見るためにアンケートの取り方も見直していきたい。

(2) 令和6年度の学校経営方針について

島仲校長：小中共通目標の学校教育目標「自立・夢を拓く」に向けて、「追究する子」、「創造する子」、「協働する子」と大きな柱を3本立てた。「追究する子」の中心となる「深める学び」については新しい取り組みとして、モジュール学習と外国語推進校の研究委託がある。モジュール学習は自己の学習調整能力の育成をねらって45分の1単位授業を15分×3回で行う。外国語は、根拠をもとに自分の考えをわかりやすく伝えたり、対話を通じて相手の考えを理解したりする力を養っていくために、英語だけでなく教科横断的に言語活動を取り入れていく。「創造する子」については教育活動全体を通じて新しい価値を生み出す力を養っていききたい。その中でインクルーシブの視点も重要になってくる。「協働する子」においては社会とのふれあいは欠かせない。生活科や総合的な学習の時間の中で地域社会の方々と関わり、学びの価値を高めていきたい。

(3) 意見交換

石井委員長：来年度は体育館が使用できないので、えびなっ子スクールのダンスのプログラム等は文化センターで行いたいと考えている。

島仲校長：地域で行われる祭りに子どもたちがブースを出すなどの参加はできないか？

石井委員長：文化センター祭りや、コミセン祭りなどがあるから、その一角に大谷小学校の子どもたちのコーナーがあってもよいかもしれない。

藤澤委員：地域の人たちは、学校に出向いていくよりも地域の施設の方が行きやすい。また、PTAの人たちに手伝ってもらうのもよいのではないか。子どもたちが参加すれば、保護者も参加して地域も活性化していくのではないか。

桐生委員：地域との関りをカリキュラムの中に位置づけるとよい。発達段階を考えて、低学年は地域の方を学校に招く、高学年は外に出て行って学ぶというように。

藤澤委員：大谷小の子どもたちが地域をガイドするという活動もよいかもしれない。この地域には歴史、植物、動物等資源が豊かである。

桐生委員：地域のことは子どもが興味をもちやすく意欲的に学ぶことができる。

今別府委員：昔はこの辺は海で、まくじら公園の名前の由来でもある。

桐生委員：地域におもしろいものはたくさんあるが教師が知らない。

モジュールはすでに実践している学校はあるのか。効果はあるのか。

島仲校長：実践している学校はある。効果的に取り組んでいくには難しい面もある。先生たちの理解をしっかりと得て取り組む必要はある。

桐生委員：インクルーシブについて、新聞記事を読んだ。考え方はよいものだが人的、物的環境においては課題があるだろう。

(4) その他

小菌教頭：予算についての報告。

島仲校長：来年度のメンバーについて、保護者の視点という意味でPTAの方、今年度地域交流でご協力いただいた民生委員の方を加えたい。

(5) 次回の日程

第1回の学校運営協議会

5月13日(月) 9:00～